

藤代中1年生 地域貢献ボランティア その4

なごみの郷「和祭」の準備



夏休み中における藤代中学校1年生による地域貢献のためのボランティア活動、最後は8月28日、学校横にある介護老人福祉施設「藤代なごみの郷」の夏祭り、「和（なごみ）祭」のお手伝いです。午前と午後の2回に分かれて、計11人の1年生たちがお手伝いをしました。配付物の準備、水風船やポンポンの制作など、一生懸命取り組んでいました。お祭りそのものへの参加ではなく、こうした準備、いわば「裏方」の協力ができることも素晴らしいことだと感じました。



9月から家庭科の授業で「ナップザック」づくりが始まった藤代小6年生。この日は、ミシンで縫う前の段階の学習活動でした。

「ふじっこサポーター」の方々が授業に参加し、子供たちの活動を支援してくださいました。何度も学校に足を運んでくださり、子供たちの学習をサポートして下さる方々に感謝したいと思います。

藤代小CS協働活動 6年生家庭科 ナップザックづくり



授業は9月後半からいよいよミシンを使って布を縫う活動に入っていきます。現在、ふじっこサポーターに登録してくださっている方々に、支援の募集をしています。これからも多くの方に子供たちのサポートをしていただけたらと思います。

桜が丘小1年 図工「初めての絵の具」 音楽「初めての鍵盤ハーモニカ」

9/8、10の図工、音楽の授業に、STサポーターの方々に
ご協力いただきました。どちらも1年生として初めて
「絵の具」「鍵盤ハーモニカ」を使う授業でした。
サポーターの方々の温かい励ましを受けながら、子供たちは
初めての学習にわくわくしながら楽しんで取り組みました。



サポータールームで一休みしながら、1年生の成長への期待や自分たちの子供時代の音楽の話に盛り上がりました。学校を通して地域の方のコミュニケーションの場が広がるのも楽しみです。

地域人材を活用した「防災教育」
の実践を目指し、かねてから学校
運営協議会で話し合ってきた藤代
中学校。そこに手を挙げ、立ち上
がってくださったのは藤代中の学
校運営協議会の会長さん。会長
さんは2011年東日本大震災があ
った年、取手市の職員として災害
対応の最前線に立たれたご経験の持ち主だったのです。

この日は体育館に全校生徒が集まり、会長さんからの「防災講話」を受講しました。
あの時、取手市で何が起きたのか、その対応にどれだけの困難があったのか、そして、
また同じような災害が起きたとき、私たちはどう行動すればよいのか。貴重な資料とお
話を見聞することができた1時間でした。

藤代中CS協働活動 CS会長による「防災講話」



藤代中学校の生徒の皆さんへ ①

自分の身は自分で守る

災害時は、自助・共助・公助の3本柱

自助は、自分や家族の身を自分で守ることです。
たとえば、非常食を備える、避難場所を確認する、災害時にまず自分の安全を確保することを行います。
これができないと、他人を助けることもできなくなり、他人からの助けが必要となってしまいます。そのためには、災害が発生した時、どういった行動するかシミュレーションして、頭の片隅に置くことが重要です。

共助は、地域や近くの人どうしで助け合うことです。
たとえば、近所の人の安否確認、高齢者の避難の手助け、地域で協力して行動することを行います。

公助は、行政や消防、警察、自衛隊など公的機関による支援です。
救助活動や物資支援、避難所運営などがこれにあたります。